

## 8週 人間と結ばれた契約

**質問 12.** 神は、創造された状態の人に、どのような特別の摂理の行為を取られましたか。

**答え I** 神は、人を創造された時、完全な従順を条件として、人と命の契約を結ばれ、善悪を知る木の実を食べることを、死の刑罰として禁じました。

### 解説

#### 行い契約

創世記 2 章 16-17 節で、神はエデンの園にあるすべての実については自由に食べられるようにし、善悪を知る木の実については、食べてはならないと禁じ、食べる時は必ず死ぬと仰せられました。これを「行い契約」と呼びます。アダム

は公的な人であったので、人類を代表しているから、この契約は、神がアダムとすべての人類と結ばれたものでした（ホセア 6:7）。

この契約は、神の主権を見せています。神が被造物である人間に来られて、契約を結ばれたことで、神は、人間とご自身とを結ばせ、人間は神に対して結ばれるようになりました。

神が、すべての実は食べられるが、善悪を知るようにする木の実については食べてはならないとした理由は、アダムの従順を試そうとしたことです。もちろん、神がアダムに知識と義と聖を与えたので、アダムは自発的に従順することができ、能力もありました。従順すれば永遠に幸いな状態（命の状態）にいるようになります（従って「命の契約」と呼びます）、不従順すれば死ぬことでした。ここで明確にすべきことは、従順を通して義となるのではなく、従順を通して神を愛することを、神に証しできるということでした。

## 神の主権

神は人間と、このように契約を結びながら、人間が契約の条件などを移行できる能力も与えました。人間には、内的に義があったので従順することができました。そして知識と聖があったので、完全に従順することもできました。アダムが造られた時、すでにこのような能力を所有していたので、神がこのような契約を結ぶことは極めて当然でした。人間は無罪状態にいたから、神の法を完全に守ることができたので、行い契約には仲介者が必要なかったのです。そしてこの契約は、神はご自身を低くなられ（condescended）人間と結ばれたのです（出 3:8）。そして神は、ご自身を人間と結ばせました。このように神が人間と結ばれた契約自体は、神の特別な愛を現すことことです。

## 神の愛に対する人間の応答

神がこのようにご自身を人間と結ばせたので、これほどの愛を受けた人間は、当然、神に従順すべきです。さらにエデンの園において、神が人間に与えられた有益は、言葉で言い表せないほどの貴重なものでした。アダムは神との緊密な交際の中で従順することができました。

人間は、靈魂のすべての能力と機能と、肉体のすべての肢体と部分を、神に仕えるのに使用すべきです。この従順は、外的な従順だけではなく、内部的な従順にも、心の従順にも、部分的な従順ではなく完全な従順です。完全な従順とは、仕方がなくする従順ではなく、自発的な従順を意味します。そして、従順する中で、喜びと感謝がその中にあることです。これは、言葉と考えと行動において、すべての従順を含んでいます。そして、完全な従順とは、常に従順することを意味します。

## 行い契約において約束されたこと

行い契約において約束されたことは、命でした。この命は、自然的な命を含め、靈的な命を意味します。靈的な命は、靈魂が神と、結合している状態を意味します。そして、この命は、永遠の命を意味します。体と靈魂が、永遠に幸福の状態にいることです。

## 神に対する不従順

しかし、アダムは、神に従順しませんでした。彼は、善悪を知る木の実の特性上、自分が不従順したことで、悪に陥っていることを知っていました。つまり、自分は罪によって悲惨な状態に陥っていることを自ら知ることができました。

また、罪によって、自分が受けるべき刑罰が死であることも知っていました（創 2:17、ロマ 6:23）。アダムの罪は私たちの罪となり、人間は惨めな状態に置かれるようになりました。

## 死

神は、罪に対する刑罰が死であることを警告なさいました。死には、人間の体が死ぬことと同じに、一時的な死と霊的な死が共にあります。それで、アダムとエバは、不従順の以降から、常に死の可能性の下に置かれていました。さらに霊的な死は、靈魂が神から分離され、神の形を失ってしまった状態を意味します。霊的な死は、人間が安楽して、美しい神の御前と、持続されるその方の栄光から除外されている状態を意味します。この状態は、神から直接下る怒りを受け、靈魂が一番、苦痛を覚える苦悩の中にいる状態です。地獄で永遠に苦しみを受けている状態を語ります。この時から人間には、このような呪いの状態から救ってくださる仲介者が必要になりました。